

◆◆◆ 10年ぶりに新しくなった「気象庁震度階級関連解説書」

震度は、地震による揺れの強さを総合的に表す指標で、防災対応時の基準等として広く用いられています。気象庁では、地震が発生した際にその震度に応じてどのような現象や被害が発生するかの目安を示した資料「気象庁震度階級関連解説書」を用意していますが、これまでの解説書は作成されてから10年以上が経過し、その表現等に必ずしも時代に即していない点もみられることから今般その改定を行い、3月31日（火）から新たな解説表の使用を開始しました。

この改定は、学識経験者及び行政委員からなる「震度に関する検討会」（座長：翠川三郎東京工業大学大学院教授、事務局：消防庁、気象庁）において平成21年3月23日にとりまとめられた結果にもとづき行われました。

また、今般の改定に伴い、一般向けの「震度と揺れ等の状況（概要）」、及び、防災担当者向けの「気象庁震度階級の解説」が、あわせて用意されました。

「気象庁震度階級関連解説書」の主な改善点等は、以下のとおりです。今回の改定では、震度階級と被害との基本的な対応関係は従来のままとされ、その表現を現在の社会情勢に合致したものにするとともに、最近発生した地震の際の被害事例のなかで注目された事項が追加されました。

- ・震度6強と震度7はともに強い揺れであり、人間の感覚では両者の区別が困難なため、人の体感・行動の事項では、震度6強と震度7の項を統合して記載。

- ・木造建物や鉄筋コンクリート造建物の状況は、耐震性の高低に応じて記載。また、実際よりも大きな被害をイメージする用語が用いられていたことから、誤解を与えないよう、実際の現象を適切に表す表現に変更。

- ・被害などの数量や程度を表す副詞・形容詞について、「かなり」、「多い」など、その意味があいまいな用語を避け、広く理解が共通している用語を使用。この場合においても、本資料で用いる際の一応の目安としての意味を定義して使用。

- ・一般向けに、震度に対応する被害等の状況が簡潔にわかるイラスト付きの資料として、地震時にとるべき行動も記載した「震度と揺れ等の状況（概要）」を作成。

- ・防災担当者の利便性を考慮し、参考資料を添付し広報用資料としてまとめた「気象庁震度階級の解説」を作成。

- ・また、「気象庁地震階級関連解説表」は、今後5年程度で定期的に点検を行うとされています。

【人の体感・行動、屋内の状況、屋外の状況】（気象庁震度階級関連解説表から抜粋）

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	—	—
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がある。	—	—
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もある。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	—
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もある。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がある。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。

		半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	
5 強	大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

上記の表や「震度と揺れ等の状況（概要）」をわかり易く示した一枚のカラーイラストが、「気象庁震度階級の解説」のなかに掲げられています。気象庁のホームページからダウンロードし、家庭、地域、職場等で広く活用願います。

（気象庁のホームページより）